

【北海道小樽市】地域の交流拠点「おたる海の学校」の設立に向け、協議会を新設。産官学連携の漁村まちづくりで交流人口の創出、地域経済の活性化を目指す。

旬の地魚や漁業の歴史・文化等、海の資源を教材とした学びの場「おたる海の学校」を設け、漁場環境の価値や面白さを見える化。
関係人口の創出、地魚商品販売に繋げ、地域のビジネスを創出。

地域の状況及び、申請当初の企画

地域資源	祝津漁港(第1種漁港)、全国屈指の知名度「小樽」、良質な地魚(養殖ホタテ、ウニ、シャコなど)、ニシン漁に関わる歴史・文化や歴史的建造物・番屋群、おたる水族館、祝津マリナー、旧祝津小学校(廃校)、磯焼け対策(藻場再生、ブルーカーボン)
地域課題	●海鮮丼に代表される観光消費では、地魚の調達率は低い。域外・輸入原料へキャッシュアウト ●観光地に隣接する祝津漁港はホタテで安定しているが、漁業を通じた地域経済への波及は限定的で、地域コミュニティが衰退し、観光関連施設の老朽化も進んでいる
ビジネスアイデア	●旬の地魚製品開発(業務用/家庭用) ●体験コンテンツの造成(「海を学ぶ」体験コンテンツ/海的环境を食べて学ぶ「旬の地魚海鮮丼づくり」など) ●拠点整備(祝津漁港および周辺地域/旧祝津小学校) ●祝津漁港(第1種漁港)の「海業」計画の策定と登録

コーディネーター＆専門家による支援

コーディネーター



大塚 英治氏

海産物の販路開拓を行う地域商社・株式会社キットブルー 代表取締役。海洋調査・ダイビング関係サービスを行う株式会社沿海調査エンジニアリング 代表取締役社長。小樽観光協会理事。

コーディネーターが考えた支援のポイント

関係者間で目標を共有しておらず、連携不足

専門家

①商品開発のアドバイス

一次産業(地域資源)の商品開発や「農×食×観光」などの食のコンテンツ作りをサポート。

②廃校利活用のアドバイス

廃校を宿泊施設としてリノベーションの企画設計・運営の講演を実施。

③まちづくりのアドバイス

地域経済分析システムを活用した経済地理学の観点でまちづくりを推進。

コーディネーターが考えた専門家選定のポイント

地域の可能性について、様々な学びを得るとともに、将来像に近い事例を紹介できる専門家を選定
①食と地域振興の支援②廃校リノベーション③タウンマネジメント

支援内容	関係者、地域資源、推進課題の確認・合意形成	事例、勉強会の実施	将来像の目線合わせ事業モデルの設定	マッチング	【当初メンバー】	【加わったメンバー】
	参画事業者へのヒアリングを実施。事業者間の利害関係を把握しつつ、祝津漁港関係者間の合意形成を図るために、事業概要や行動計画案の共有。事業者間で方向性の認識合わせを実施。	具体的な取組を検討するため、専門家を招聘し、①「食」を通じた地域振興の視点、②廃校を活用したリノベーション手法を学び、③市民とともにまちの価値を高める地域ブランディングについての勉強会を実施。	令和7年度は「おたる海の学校」で提供する教育コンテンツの作成に向け、水産庁の補助事業に採択された。更なる事業の展開に向け、「おたる海の学校」の中長期的な事業計画と方向性、スケジュールを整理し、関係者間で認識合わせを実施。		おたる祝津たなげ会（申請者） 中小企業家同友会 小樽商科大学 小樽観光協会 小樽市漁協 小樽市（協力団体）	一般社団法人北海道海洋文化フォーラム 祝津町会 東海大学（海洋教育）
現時点での成果	●「おたる海の学校」協議会を設立。活用可能な地域資源を整理し、参加メンバー共通の目標を設定。 ●水産庁の補助事業「海業」に応募し、採択。					

今後に向けた展望・課題

- 令和7年春に「おたる海の学校」を立上げ、活動を開始
- 祝津漁港および周辺施設を活用し、「おたる海の学校」の取組の加速
- 旧祝津小学校の利活用の検討に着手

【北海道中標津町】地域経済の活性化を目指し、「素材のまち」から加工品やスイーツ、料理など「食のまち」への転換

根室中標津空港からも近く、日本有数の酪農地である北海道中標津町。酪農製品以外にも大麦、小麦、小豆など食材が豊富である。現在は、地域外への原料供給が中心であるが、地域内での価値創出に向け、料理人やパティシエ等とのコラボイベントによる新商品開発を可能とする食ラボ（開発拠点）の施設整備を検討。

地域の状況及び、申請当初の企画

地域資源	根室中標津空港、酪農製品（ミルク、チーズ、ソフト等）、農産物（大麦、小麦、小豆等）、加工食品（老舗の和菓子屋の羊羹など）
地域課題	●食材は豊富だが、地域内で加工、消費することが少なく、地域内経済循環が乏しい。事業者間連携も少ない ●中標津空港近くの立地にありながら、近隣に観光地も多く、通過エリアとなっている
ビジネスアイデア	●「中標津 食のまちづくり（仮）」ビジョンを検討 ●中標津の食材を使った加工品、スイーツ、料理等のキャンペーンやコンテストを開催 ●地域の生産者、加工業、商業、観光業等が参加した地域商社の検討

コーディネーター＆専門家による支援

コーディネーター



金子 和夫氏
金子和夫事務所 代表。地域ブランド・コンサルタント、アパレル業界、日本総研を経て独立。経済産業省「JAPANブランド」、農林水産省 地域ブランド、6次産業化、農業女子、LFP、「地域ブランド戦略」、「まちづくり、特産品開発」などの実績あり。

コーディネーターが考えた支援のポイント
中標津地区は、行政、農協、民間事業者間で連携が取れておらず、共通のビジョンが共有されていない

専門家

事業化に向けた構築支援
メディアプランニング、イベント企画、ブランドマーケティングなど幅広い分野での業務に従事。これまでの経験を活かし、地域での人脈構築にも精通。ゼロからスタートした事業を形にする実績を有する。

コーディネーターが考えた専門家選定のポイント
食をフックにした取組が必要と考え、多数実績のある専門家を選定
中標津町はもとより、北海道エリアに詳しい人物を選出

支援内容

【当初メンバー】

竹下牧場
（申請者）

+

山本農場
上原農場
JA中標津
中標津町役場
（生産者）

【加わったメンバー】

都内洋菓子店
（商品開発・パティシエ）

+

中標津飲食業連合会
（観光）

+

信用金庫
（資金アドバイス等）

+

大手航空会社
（販路マッチング・ツアー造成）

マッチング

**参画予定事業者へ説明
進行方法の検討**

申請者等へのヒアリングを実施した結果、地域外への原料供給だけでは、収益が頭打ちになるということがわかった。まずは中核的な者で話しを行い、方向性を固めた後に関係者に参画を促す方向で進めることを確認。

**ビジョンの共有
方向性の協議**

関係者間の議論を通じ、「素材のまち」から「食のまち」への転換を図ることで、新たな収益モデルが確立できるのではないかと認識を共有。アイデアを得るため、都市のシェフ等の招へいを通じた商品開発や、地域等が連携した商品の開発を可能とする食ラボ（開発拠点）などについて協議。

**事業体制の整備
協議会設立準備**

アイデアの事業化に向けて関係者への協力要請や役割分担などを議論。観光事業者、ツアー造成事業者、都洋菓子店もメンバーとして参画。令和7年度の食ラボ拠点整備に向け、補助金活用も視野に入れ、調査を開始。

現時点での成果	●関係者間で方向性の共有を図るとともに、アイデアの事業化に向けた体制を整備。 ●都市のシェフ等とのコラボイベントを行い、新商品を開発に向けた構想や食ラボ（開発拠点）の施設整備に向けて合意が得られた。
---------	--

今後に向けた展望・課題

●外部のパティシエやシェフ、食品メーカーと連携した、新商品開発の推進 ●食ラボ（開発拠点）の施設整備 ●本事業を推進するための「中標津食の街創造協議会（仮称）」の設立 ●食をテーマとした観光交流プログラムを「大手航空会社」と検討し、実証実験を実施

【秋田県横手市】調理用りんごを使った地域ブランドの確立、加工品の販路拡大

横手市の生産者、加工業者、販売先、行政が連携し、調理用りんご(クッキングアップル)の加工品を地域産品としてブランディングし、販路拡大に向け、マーケティング強化に取り組んだ。

地域の状況及び、申請当初の企画

地域資源	調理用りんご(クッキングアップル)、その他果樹、ジュース加工、コンポート加工工場、昔ながらの宿泊施設
地域課題	●異常気象による離農者増加 ●りんごの他産地との差別化 ●産地の担い手不足
ビジネス アイデア	●クッキングアップルの産地化(用途別商品展開/多付加価値化/利用シーンの創出) ●クッキングアップルWebプラットフォーム(会員制度)構築 ●クッキングアップル・ガストロノミーツーリズム



コーディネーター＆専門家による支援

コーディネーター



石井 宏和氏

株式会社グーニーズグループ 代表取締役。
東京農業大学 地域産業経済学科 非常勤講師研究員。農林水産省 LFP 政策推進委員(2023年-2024年)。
運輸観光系企業や外資系企業など経験豊富なビジネス知識の基に、販路を起点とした商品流通や社会課題の事業プロデュースに携わっている。

コーディネーターが考えた支援のポイント
地域の協力体制づくり/若年層への情報のリーチ不足など

支援内容

現状の把握及び
地域での協力体制構築

本事業の参画予定事業者へのヒアリングを通じ、課題を①調理用りんごを使った加工品の販路開拓、②地域の協力体制づくり、③若年層への情報のリーチ不足と整理。
今後の取組推進に向け、果樹農家の生産者、大学教授、農業を学ぶ大学生、若手農家などが参画した協力体制を構築。

販路先拡大に向けた商談
支援・補助金活用のご案内

若年層へアプローチすることを目的とするマーケティング戦略、事業計画を立て、商談を実施。商談と並行し、具体的な商品開発・設備投資案を検討。さらに事業拡大に向けた補助金活用についても調査、アドバイスを実施。

事業まとめ・
今後のプラン

調理用りんご飲料の試作品を開発し、初回納品を実施。今後、加工商品の製造計画の策定および人材の採用・育成に取り組む。また、担い手不足を解消するため、生産力向上・業務効率化に向けて機械設備にAI等のソフトウェア導入を検討。

マッチング

【当初メンバー】

宥たかえん
(申請者)

小原農園(横手)

ダイセン創農
(提携加工会社)

秋田県立大学

【加わったメンバー】

大手ジュエリー
ブランド
(飲料卸先)

加工会社

飲料メーカー



現時点での
成果

- 果樹生産者をはじめとした関係者との会議を行い、協力体制を構築。
- 大手ジュエリーブランド(レストラン経営)や飲料メーカーに営業支援を行い、販路を開拓。

今後に向けた展望・課題

- 生産力向上・業務効率化に向けて機械設備にAI等のソフトウェア導入を検討
- クッキングアップルの産地化を目指して自治体との協力体制の強化
- 後継者を見据えた若年層の人材採用や育成
- ファン拡大のためのフードツーリズムの実施

【福島県田村市】被災地での自然教育・環境教育プログラムの事業化による価値創造

福島原発の被災地だからこそ伝えられる環境の大切さや、自然の尊さを軸とした教育・体験プログラムの事業化を目指し、収益化に向けた計画を策定。

地域の状況及び、申請当初の企画

地域資源	市内の70%を占める森林資源(森林を活用した自然教育プログラム)、ムシムシランド(昆虫のテーマパーク)、原発被災地だからこそ可能なエネルギー教育、防災教育
地域課題	●原発による風評被害の払拭 ●森林の資源化 ●地域のブランド化 ●自然教育を軸にした子育て世帯の誘致(人口減少)
ビジネスアイデア	●親子向けの自然を活用した環境教育プログラム「もりのび」の自律化と収益性の向上

コーディネーター＆専門家による支援

コーディネーター



松本 卓也氏
福島県などの地域づくりを支援する事業に複数従事。ローカルメディアの運営や、子どもの居場所づくり事業の立ち上げ経験など、実践者の知見を活かして、まちづくり事業を支援。これらの経験を通じて、地域の活性化やコミュニティの強化に貢献。地域のニーズに応じたプロジェクトを展開し、住民の生活の質を向上させることを目指している。

支援内容

コーディネーターが考えた支援のポイント
原発被災地としての「価値」を見出し、他地域との差別化ポイントを図る

現状把握

活動の再設定・実装支援

今後のプラン

現状の体験プログラム内容や活動計画のヒアリングを実施。体験プログラムについてはコンセプトが定まっていないこと、他地域の体験プログラムとの差別化ができていないことを把握。他地域との差別化に向け、どういった取組に注力していくのか関係者の間で議論を実施。

関係者間での議論を踏まえ、プログラムのコンセプトを「学びながら遊ぶ」に設定。このコンセプトを軸として、他地域との差別化を図りつつ、被災地としての価値を創造できるようなプログラム構築を進めることを決定。

体験プログラムの事業化、自走化に向けた、活動計画、収益プログラムの策定を実施。また、取組の地域内外への周知を図るため、林野庁の「森林サービス産業推進地域」に申請し、登録。行政との連携も図り、協力体制を構築し、令和7年度は体験プログラムのテストマーケティングを実施予定。

マッチング

【当初メンバー】

一般社団法人 Switch (申請者)

(株)田村市常葉振興公社 (フィールド提供)

【加わったメンバー】

福島大学 (教育的な観点から体験プログラム支援)

田村市役所 (森林サービス産業推進地域の登録)

沖縄県内小売大手 (販路)

現時点での成果

●プログラムコンセプト(「学びながら遊ぶ」)や運営体制(申請者Switchの体制整備)の再設定。
●森林サービス産業推進地域への登録。●令和7年度以降を見据えた活動計画、収益プログラムの策定。

今後に向けた展望・課題

- 主に地域外の教育への関心が高い層を対象とした体験プログラムの周知
- 通年運営できる運営力の確保(人的資源の不足、プログラムの拡充)
- 関係者と連携した体験プログラムの充実

【栃木県鹿沼市】山間部の古民家を新たな交流拠点とした周遊体験コンテンツの創出

山間部の古民家を活用した宿泊やメニュー開発に向けた実証実験の準備を進める。さらに、自治体が策定するブランド戦略に合わせた共通ビジョンを掲げ、地域ステークホルダー間の連携を促進。既存の観光資源を見直しつつ、新たな観光資源との連携を図り、周遊型体験コンテンツの開発を目指す。

地域の状況及び、申請当初の企画

地域資源	自然景観(山、森林、川)、古民家、天狗信仰、古峰神社、大手アウトドア会社のキャンプ場、鹿沼ダム(建設中)
地域課題	●大手アウトドア企業の参入やダム建設など、新たな観光資源も増えるなか、連携ができていない ●個々で活躍するプレーヤーや観光協議会などは存在するが、活かせていない ●既に地域創生を行う事業者が多いが、連携は少ない
ビジネス アイデア	●古民家を活用した宿泊 ●体験コンテンツの開発 ●ブランドを再編集し新たな加工品を開発 ●滞在型観光エリアのブランディング

コーディネーター＆専門家による支援

コーディネーター



吉岡 隆幸氏
合同会社SOZO。2012年から食をテーマとした地方創生事業に従事。全国各地の自治体と食による町づくり活動を通し、地域資源や食品のPR活動に専念。

コーディネーターが考えた支援のポイント
事業者間の共通認識の浸透を図り、関係者が連携した取組の展開を目指す

専門家

**①ブランディング支援 ②古民家活用アドバイス ③新商品開発支援
④ブランディング・新商品のデザインアドバイス ⑤情報発信のノウハウ伝授**
仙台市秋保温泉でまちづくり会社を設立。住民主導の町づくり実績がある方を初めとして、農泊、新商品、クリエイティブ、PR・情報発信などができる複数の専門家にアドバイスを求めた。

コーディネーターが考えた専門家選定のポイント
古民家を軸とした地域事業者連携の地域活性事例を始め、商品開発、デザイン、PRの知見を有する者

支援内容

自治体と連携し
事業者の巻き込み

鹿沼市役所とともに、複数の事業者へのヒアリングを実施し、事業者間の連携不足、関係者間の利害関係等の課題があることを認識。共通認識の浸透を図ることを目的として事業説明会やワークショップを開催し、連携促進のための具体的な取組を検討。

イベントを通した
連携強化

事業者間の連携促進に向け、地域資源を活用した新商品の開発や体験型コンテンツの企画を検討。イベントでの事業者間のコラボレーションを目指し、具体的な協議を実施。イベントでの実証を踏まえて、事業化を目指す。

勉強会開催による
実践に向けた準備

鹿沼市のブランディングを学ぶ勉強会を実施。今後は、農泊運営に関する座学や商品開発、情報発信の手法に加え、住民主導の町づくりの在り方やノウハウ、さらにはデザインのスキルを事業者に共有し、実践へとつなげていく。

マッチング

【当初メンバー】

RINZ
(申請者)

かぬまブランド
推進協議会

鹿沼市

+

【加わったメンバー】

地元飲食店

花農場
養鶏農家

多肉植物等
事業者

自転車ショップ
(周遊コンテンツ関連)

現時点での
成果

●地域の事業者間の連携を促進。
●共通ビジョンのもと、官民連携で進める体制を構築。

今後に向けた展望・課題

●事業者間の連携に向けて、継続的な話し合いの場やノウハウを活かせる場を創出

【静岡県伊豆・伊東市】耕作放棄地解消に向けた①菊芋栽培・生産・販路開拓並びに②バイオ炭を使った豊かな土壌作り

耕作放棄地における菊芋栽培を専門家と連携しながら支援し、製菓会社や大手美容メーカー等へ販路開拓を実施。また、産業廃棄物として廃棄される支障木等を活用し、バイオ炭を使用した豊かな土壌づくりを推進。

地域の状況及び、申請当初の企画

地域資源	菊芋、間伐材、支障木や農業残渣等の未利用資材、耕作放棄地、捕獲鹿、林産物、観光地としての環境
地域課題	●放置人工林、産業廃棄物として廃棄される支障木等のバイオマス未利用材 ●増え続ける耕作放棄地 ●農業由来の温暖化ガス排出、鹿の異常繁殖による森林被害 ●地方の過疎化
ビジネス アイデア	●森林の生態系回復と持続的な利活用 ●未利用資源の活用と環境再生型農業の推進 ●バイオ炭活用による持続可能な農業を推進 ●付加価値の高い農産物と観光市場への展開 ●シカ皮の活用とアートとの融合

コーディネーター＆専門家による支援

コーディネーター



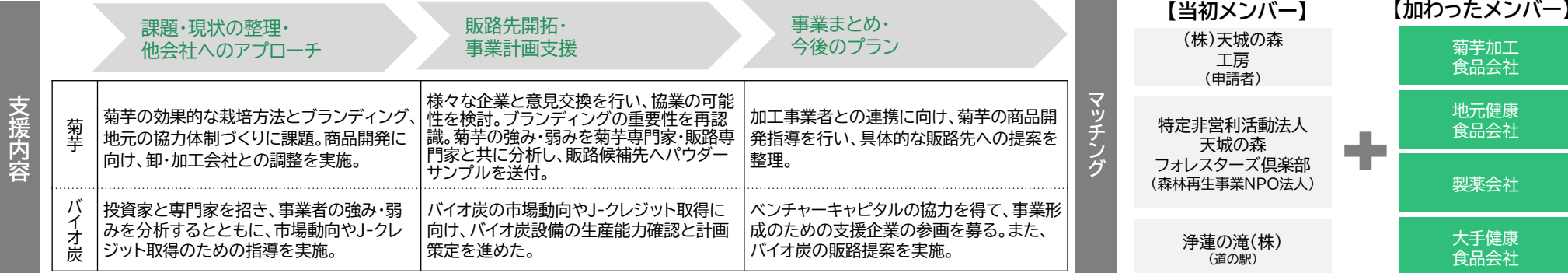
牛島 晃氏
株式会社つなぐネットワーク代表取締役。大手広告会社時代から全国各地の様々な魅力ある地域資源の発掘、磨き上げ、販路開拓を中心に官民連携の課題解決を実践。これまで培った経験を活かし、商工会の専門家としても活躍中。

専門家

①菊芋の商品開発に関するアドバイス②菊芋・バイオ炭の販路拡大③バイオ炭活用のアドバイス

菊芋の栽培方法や機能性表示に関する深い知識を持ち、地域商品販売やコンサルタントとしての経験を活かして菊芋パウダーの販路開拓などに携わってきた方やバイオ炭の他地域の取組に精通しており、幅広い有識者のネットワークを持つ、複数の専門家にアドバイスを求めた。

コーディネーターが考えた支援のポイント バイオ炭に関する有識者が地域にいない/菊芋の価値の検証や販路が不足	コーディネーターが考えた専門家選定のポイント 菊芋の生産拡大・販路開拓に向けた地域商品販売やバイオ炭に関する専門的知見
--	--



現時点での 成果	● 菊 芋 ： 販路候補先へ菊芋パウダーのサンプル送付。関連企業(美容食、サプリメント等)連携や投資家のアドバイスのもと、地元企業への協力要請を継続中。 ● バイオ炭： 利用促進のための地域の協力体制を構築。
-------------	---

今後に向けた展望・課題

- 菊芋を地域のブランドとして確立
- 事業拡大や地域の人材育成に向けて補助金の活用を検討

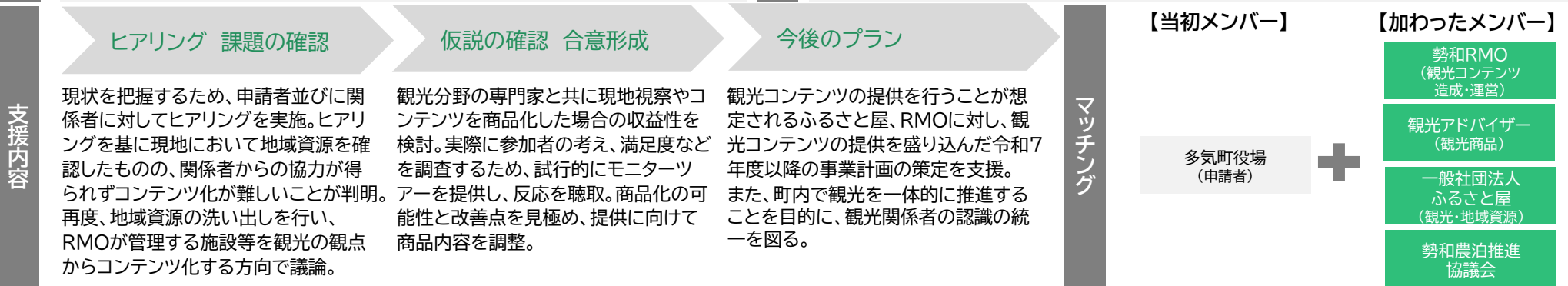
【三重県多気町】地域資源を磨き上げ、新たなモニターツアー案を検討

多気町勢和地区の地域資源を整理し、観光資源になり得るコンテンツを選定。
点在するコンテンツを連携させ、ストーリー性のあるモニターツアー造成を検討。

地域の状況及び、申請当初の企画	
地域資源	元丈の館、薬草・薬樹、たけのこ、メンマ、伊勢芋、松阪牛、前川次郎柿、立梅用水、丹生大師、相可高校(高校生レストラン)、大手製薬メーカー、ふるさと村どうぶつパーク(除草用ヤギ)、VISON(本草湯、薬膳料理)、高校生薬草アドバイザー
地域課題	●人口減少(少子高齢化、人口流出) ●耕作放棄による竹害と獣害の拡大(農業の担い手不足) ●二次交通不足 ●廃校/廃園 ●語り部育成 ●既存施設(元丈の館)の維持・管理
ビジネスアイデア	●観光ツアーのモデルコースづくり(ビジネスモデルの検討、事業計画策定) ●身近な薬草コンテンツの提供 ●多気町合併20年(令和7年)のイベントに向けた健康づくり連携企画

コーディネーター＆専門家による支援

コーディネーター	 近藤 航氏 株式会社エガイト 代表取締役、デザイナー兼中小企業診断士。事業計画やデザイン戦略の策定、商品開発など、デザインと経営の両面から地域の一次生産者や中小企業を支援。道の駅や産直施設の立ち上げや経営支援のほか、ふるさと納税のアドバイザーなど、地域プロデュースにも携わる。 コーディネーターが考えた支援のポイント 地域資源は点在しているが、線になっていないため、地域間で協業できる部分を整理し、検討する必要	専門家	観光の観点からのアドバイザー (観光コンテンツ開発、モニターツアー造成支援) 地方創生部門に関わる『じゃらんリサーチセンター』にて総合プロデューサーとして東日本全域を担当。大小様々な観光コンテンツ開発、DMO支援、観光戦略立案、各種調査業務等に携わり、観光による地方創生事業の実施。 コーディネーターが考えた専門家選定のポイント 観光分野でのコンテンツ開発から伴走まで総合的に支援できる専門家を選出



現時点での成果	●令和7年度以降、ふるさと屋、RMOが観光コンテンツを提供していくための体制、事業計画の整備。 ●令和6年度の取組を踏まえ、令和7年度に農泊を担当する地域おこし協力隊が着任する予定。
---------	--

今後に向けた展望・課題

- モニターツアーの実施・検証・商品化
- 勢和地区の農泊に関連するコンテンツの検討
- 各種観光コンテンツの販売に向けた旅行代理店との連携

【島根県八束町】関係人口の増加を目指し、持続可能な島づくりと観光を軸とした新規事業の創出に取り組む

大根島は農業者の後継者不足により、これまでの農産物を中心としたブランド価値の低下が懸念される。この課題を解決するため、島の資源を活用した新たなビジネスの創出を検討。中海に浮かぶ火山島・大根島の2030年を見据え、持続可能な島づくりに向けた観光を軸とした事業の創出を目指す。

地域の状況及び、申請当初の企画	
地域資源	島の自然環境(日本一低い火山の島、熔岩洞窟に住む貴重な古代生物、火口が見れる洞窟、黒ぼく土壌等)、耕作放棄地を活用したドッグラン、良質な地下水を活用した農産物
地域課題	●高齢化により島の基幹産業(牡丹生産)衰退の可能性 ●地域の人気観光施設以外の立ち寄りスポットがない ●牡丹以外の農作物も生産者の高齢化で減少しており、耕作放棄地が増加
ビジネス アイデア	●学び体験コンテンツの開発、販路開拓(ペット×食をテーマに学習/生命学習×謎解き島めぐりツアー/農業×リトリート(癒やしの休暇) ●学びの拠点としてのエリアブランディング

コーディネーター＆専門家による支援

コーディネーター



小倉 綾氏
中小企業診断士。売れる商品・儲かる仕組み作りを中心としたコンサルティングや研修に従事。地域と取り組む地域ブランド化では、地域資源の発掘・磨き上げから販路開拓のほか地域住民や関係機関等の連携など多方面から支援。

コーディネーターが考えた支援のポイント
地域資源の整理、持続可能な島への新たなビジョンづくり

専門家

新事業創出のアドバイス
複数のベンチャー企業経営に携わり、大手企業と合併にて経営コンサルティング会社を設立。中小企業基盤整備機構のアドバイザーに登録。主に中小企業の新事業開発を支援。中国経済産業局官民合同企業支援チームのメンバーとして、地域未来牽引企業へのコンサルティングを実施。

コーディネーターが考えた専門家選定のポイント
新事業の創出に向けて、中国地域内のネットワークや様々な知見を有する

支援内容

地域の資源と課題分析

大根島のこれまでの取組、外部環境の変化等を踏まえた分析を実施し、農業の担い手不足による農産物を中心とする地域ブランド価値の低下を把握。将来に向けた具体的な取り組みの必要性を認識し、5年後の2030年を見据えた構想の方向性を検討。

将来構想を検討

関係者間で未来のビジョンについて協議し、ビジョンを実現するための「活用可能な地域資源」、「ビジネスモデル」を検討。具体的なターゲットを「定年を控えたお父さん世代」、「キャリアを考え直したい30代女性」に設定し、コンテンツ案を検討。

行動計画を検討

専門家も含め関係者間で実施内容、スケジュールの優先順位を検討した。その結果、観光を目的とした「拠点づくり」を優先項目と設定。具体的取組として、体験型観光ツアーや自身で自由に楽しむセルフガイドツアー、どぶろく事業等を策定。

マッチング

【当初メンバー】

(株)W.L.D
(申請者)

地域の生産者

出雲国
ジオガイドの会

松江市
八束支所

+

【加わったメンバー】

島内各事業者

レンタルバイク
関連会社

特産品PR会社

松江観光協会
八束支部

現時点での
成果

●2030年に向けたビジョンの策定 ●地域の資源を活用した様々なコンテンツ策定(島内を周遊するツアー商品造成等)
●取組に賛同した島内事業者のコンテンツ策定(にぎわい創出のためのどぶろく事業、レンタルバイク事業)

今後に向けた展望・課題

- キャッチフレーズを商標登録し、事業化を推進
- 「2030年ビジョン」や「ビジネスモデル」を創造・推進していく人財の確保

【広島県広島市】新たな集客拠点となる広島市中央卸売市場を活用した観光事業創出

広島市中央卸売市場にBtoC向けのにぎわい施設が新設され、新たな集客拠点となる予定。来訪者を増やすため、まずは、中央卸売市場内の広島魚市場株式会社が中心となり市場発着の体験型観光ツアーを提供する観光事業に取り組み、付加価値の向上を目指す。

地域の状況及び、申請当初の企画	
地域資源	広島市中央卸売市場（水産、青果、花卉、地魚）、観光資源（宮島、厳島神社、平和記念公園、広島世界遺産航路の水上航路等）
地域課題	●人口転出超過 ●若年層にとって魅力的な地域産業が少ない ●日帰り観光客が多く、観光消費額が低い ●広島中央卸売市場に「にぎわいエリア」が新設されるが、観光事業を行える人材がいない
ビジネスアイデア	●卸売市場を拠点とした瀬戸内ならではの海業の展開 ●新たなツーリズムの創出による体験拠点化（海を中心とした観光/食体験） ●新たな名物料理、お土産品の開発

コーディネーター＆専門家による支援

コーディネーター



小倉 綾氏
中小企業診断士。売れる商品・儲かる仕組み作りを中心としたコンサルティングや研修に従事。地域と取り組む地域ブランド化では、地域資源の発掘・磨き上げから販路開拓のほか地域住民や関係機関等の連携など多方面から支援。

専門家

新事業創出のアドバイス
複数のベンチャー企業経営に携わり、大手企業と合併にて経営コンサルティング会社を設立。中小企業基盤整備機構のアドバイザーに登録。主に中小企業の新事業開発を支援。中国経済産業局官民合同企業支援チームのメンバーとして、地域未来牽引企業へのコンサルティングを実施。

コーディネーターが考えた支援のポイント

卸売市場の建て替えを踏まえ、観光を軸に新事業を立ち上げる

コーディネーターが考えた専門家選定のポイント

新事業の創出に向けて、中国地域内のネットワークや様々な知見を有する

支援内容

市場分析と方向性策定

広島魚市場㈱の課題を明確にするため、SWOT分析（強み・弱み・機会・脅威）や市場分析を実施。整理した情報をもとにターゲット層、プロモーション戦略を検討。卸売市場の建て替えにより、BtoC向けの集客施策が新設されることを踏まえ、新たに観光事業に取り組むことを決定。

体験観光プランの開発・地域との連携

専門家を交えた関係者間で観光コンテンツについて議論するとともに、現地視察を実施。現地の環境や参加者のニーズを把握した上で、広島湾の自然の美しさ、豊かな食文化が伝わる、より魅力的な体験観光プランとなるよう改善。連携事業者・関係機関への説明を行い、地域の賛同を得ながら観光プランの構築を目指す。

観光プラン策定

消費者への観光プラン提供に向け、他社との差別化ポイントを明確にするとともに、更なる改善に向け、観光に関わる人材や宿泊・食事・体験などのコンテンツを発掘し、事業を推進する体制を構築。今後は、補助金を活用して観光プランのPR、充実を図ることも検討。

マッチング

【当初メンバー】

広島魚市場㈱（申請者）

広島市

+

【加わったメンバー】

広島市中央卸売市場連合会

江田島市

江田島市商工会

美能漁業協同組合（江田島市）

現時点での成果

●市場分析を踏まえ、新たに観光事業に着手。地域と連携した観光プランを策定。
●観光プランの充実に向け、卸売市場近隣にある江田島市関係者と連携したツアー開発に向けた協議を開始。

今後に向けた展望・課題

- 漁村文化や料理、広島の魅力が伝わるリピーター獲得を目指した観光ツプラン（江田島コース、厳島コース、オイスターコース）の提供
- 広島市中央卸売市場全体がBtoC向けにシフトしていく予定であり、広島魚市場㈱の取組を他の市場関係者へも展開し、市場全体の活性化に貢献

【徳島県海部郡牟岐町】町内関係者の連携による牟岐町ジビエの認知度向上に向けたブランド構築

1年を通じてジビエの捕獲・供給が可能な牟岐町の独自性をコンセプトに、町内の観光事業者等と連携をした地域内外へのブランド構築に向けた取組を推進。

地域の状況及び、申請当初の企画	
地域資源	ジビエの処理・加工施設（徳島県認証『阿波地美栄』の食肉処理施設）、牟岐川（アクティビティ）、山間部の緑豊かな景観、季節の野菜、築150年以上の古民家など
地域課題	●少子高齢化に加え、若者の流出や出生率の低下が進み、人口減少に直面＝地域活力の低下 ●若年層の働き手不足 ●シカやイノシシなどの野生動物が増加し、農作物への被害が深刻化
ビジネスアイデア	●ジビエをフックにした商品サービスの提供と食育 ●ジビエの食肉加工・販売 ●角、骨、皮等廃棄物の有効活用し、アクセサリや皮製品など服飾雑貨の開発 ●ジビエ体験プログラムの企画・運営

コーディネーター＆専門家による支援

コーディネーター



宮崎 秀和氏
地域活性化、6次産業化、農山漁村イノベーション等の支援などを中心に、新規事業立上げ、ビジネスモデル構築、コンセプト立案、ブランド化及びブランディング支援、商品開発支援、デザインコーディネート、販路コーディネート等のマーケティング、事業計画策定などの支援活動を実施。

コーディネーターが考えた支援のポイント
この地域の特徴と他地域の特徴の明確にし、差別化ポイントを見出す必要
この地域の特徴に基づいたブランディング構築が必要

専門家

ブランディング・商品開発・販路開拓支援
料理人の経験を有し、現在は飲食店舗・加工施設の新規開業支援に従事。また、飲食店舗の経営再生や食品のプライベートブランド・OEM商品の開発に携わり、食全般のコンサルティング活動を実施。

コーディネーターが考えた専門家選定のポイント
新商品ブランドをPRするに当たり、商品開発、フードコーディネート等について、多くの実績を持つ

支援内容

現状把握及び優位性の明確化

他地域との差別化を図る観点から、申請者、町役場、商工会、猟銃会にジビエの特徴、捕獲数等のヒアリングを実施。ヒアリングの結果、「1年を通じてジビエを捕獲が可能という点で他地域との差別化を図ることができる」ことが分かった。

コンセプト設計及びブランド化

他地域との差別化を目的とするブランド構築に向け、申請者、町役場、商工会の担当者間で議論を実施。ブランド名の「むぎ彩(いろ)ジビエ」や、コンセプト等を決定。更に、専門家も交え、PR方法、商品開発に向けた方向性の整理を実施。

コンテンツ開発及び今後のプラン

PRに向けたブランドロゴやPR素材作成に着手。作成した素材をもとに地域内外へのプロモーションするために新たに観光事業者とも連携を図ることとし、今後、「むぎ彩(いろ)ジビエ」を冠としたイベント等の取組を実施予定。

マッチング

【当初メンバー】

むぎ青空プロジェクト（申請者）
牟岐町猟友会（狩猟者）
Gibierlab匠会（加工事業者）
牟岐町・商工会（協力自治体）

+

【加わったメンバー】

飲食店（メニュー開発）
NPO法人（観光コンテンツ協力）
観光協会（プロモーション）
観光局（観光コンテンツ造成）

現時点での成果

●牟岐町ジビエの現状分析を行った上で、差別化を図ることが可能なポイントの明確化、ブランドコンセプト等を作成。
●地域内外へのPRに向け、観光事業者等をプロジェクトメンバーに追加。
●「むぎ彩(いろ)ジビエ」のPRに向けた素材を作成。

今後に向けた展望・課題

- 新ブランド「むぎ彩(いろ)ジビエ」の商品開発・販路拡大
- 地域内外への「むぎ彩(いろ)ジビエ」ブランド品質のPR
- 「むぎ彩(いろ)ジビエ」と連携した新たな商品サービス開発の実現

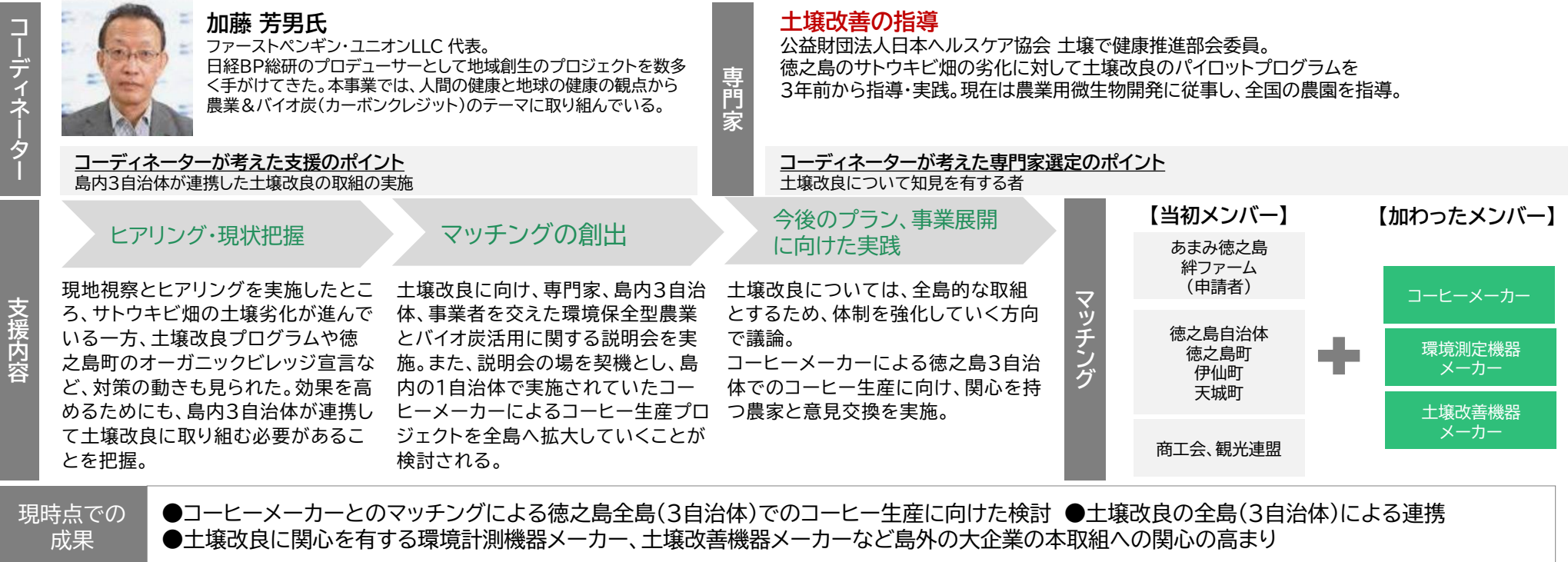
【鹿児島県徳之島】土壌改善とコーヒーの生産拡大による雇用機会創出に向けた取組

バイオ炭を農地に使用することで土壌劣化の改善を図るとともに、その農地で生産する作物の商品化、ブランド化を推進。
世界自然遺産の島にふさわしいサステナブルな産業を創出していく。

地域の状況及び、申請当初の企画

地域資源	サトウキビの残渣および未利用の牛糞のバイオマス活用が可能な事、世界自然遺産に採択された、ネイチャーポジティブな豊かな自然・生物資源
地域課題	●雇用機会が少ない為に若手世の島外流出が続いており、人口減少が加速 ●地域農業の付加価値化に至らず、所得が少ない ●サトウキビの残渣、牛糞など有効利用がされていない状態 ●サトウキビ畑を中心に土壌劣化が進み、土壌流出が増加。サンゴ礁への被害も発生している
ビジネス アイデア	●サトウキビの残渣をバイオ炭化することによる土壌改良＆カーボンクレジットの創出 ●キャッサバなど新たな地域農産物の育成＆特産品化 ●豊かな自然資源、空き家等を活用したグリーンツーリズムの構想 ●メンタル不調の都市ワーカーの農業従事＆回復プログラム

コーディネーター＆専門家による支援



今後に向けた展望・課題

- 島内の新産業としてコーヒー栽培の拡大 ●土壌改良に関心を持つ農家の拡大
- 土壌改良に必要なバイオ炭製造用の炭化炉の導入とカーボンクレジットの創出

【沖縄県宮古島市】カカオ苗の植樹支援とハチミツの販路拡大による農業者の所得向上

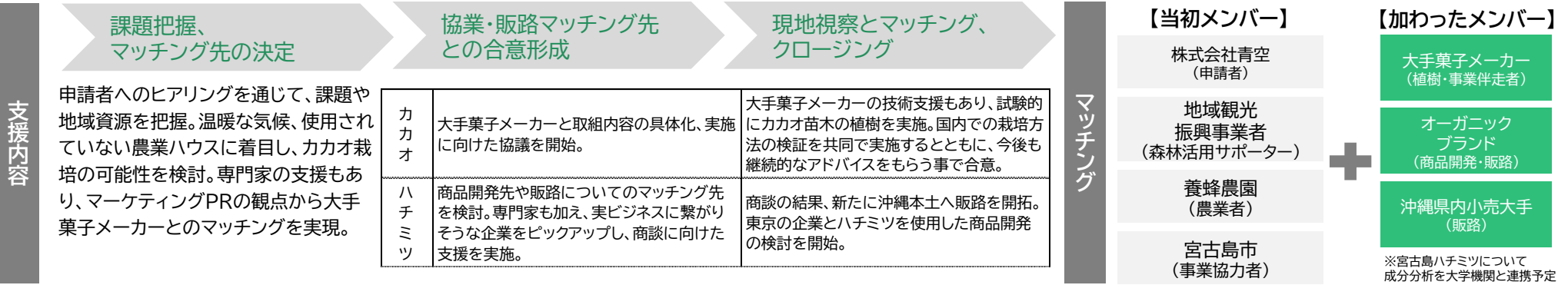
大手菓子メーカーと連携したカカオ等の熱帯果樹の植栽やハチミツの商品開発、販路拡大により、農業者の新たな収入源を確保。

地域の状況及び、申請当初の企画

地域資源	森、熱帯果樹（コーヒー等）、養蜂（ハチミツやプロポリス）、温暖な気候 等
地域課題	●農業所得が低い ●使われなくなった農業ハウス（廃ハウス） ●台風被害や気候変動による不作リスク ●若手農業者不足
ビジネスアイデア	●アグロフォレストリーによるコーヒー栽培（果皮加工商品化）や養蜂とその商品の販売事業 ●温暖化で実現できるバナナ・カカオ栽培、加工品開発による農業所得向上 ● コーヒー企業人財育成サービス化（栽培から提供まで学べる合宿地化） ●廃ハウスを活用したリトリート体験の事業化

コーディネーター＆専門家による支援

コーディネーター	 本田 勝之助氏 本田屋本店有限会社 代表取締役。 文化庁 日本遺産 プロデューサー、内閣府クールジャパンプロ デューサー、100地域におよぶ地域活性化専門家など、地域の魅 力づくりを実施。	専門家	大手菓子メーカーとマッチング 日本エシカル推進協議会アドバイザーとして 活動し、大手企業や地域、メーカー等への コンサルティング等を実施 商品開発と販路拡大・強化の支援 食と美容マーケティングの会社を起業し、プロ モーションもメインにライフスタイルを意識した 商品開発等を実施
コーディネーターが考えた支援のポイント 耕作放棄地解消に向けた取組、養蜂製品の販路確保		コーディネーターが考えた専門家選定のポイント 継続的な支援と販路先との調整や今後の展開まで実働サポートが出来る点	



現時点での成果	●カカオ：大手菓子メーカーとのマッチングによるカカオの植樹を実施。 ●ハチミツ：ハチミツやプロポリスなどの沖縄本島での販路開拓、東京の企業との協業による商品開発の検討。
---------	---

今後に向けた展望・課題

- 大手菓子メーカーとのカカオ栽培へのチャレンジとそのPR事業の推進
- ハチミツやプロポリス等を使った商品開発と販売
- 沖縄本島のフードマーケットへの商品販売強化（ハチミツ）